

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人
理事長 栗原 俊

東京慈恵会医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 20 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	147人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	603人	148人	622.5人	看護業務補助	29人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	0人	9.0人	理学療法士	13人	臨床検査技師	99人
薬剤師	66人	0人	66.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	14人	その他	0人
助産師	20人	2人	21.2人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	968人	7人	972.0人	臨床工学技士	18人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄養士	25人	その他の技術員	99人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	0人	事務職員	197人
管理栄養士	16人	6人	20.1人	診療放射線技師	65人	その他の職員	3人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	886.4人	0.9人	887.3人
1日当たり平均外来患者数	2,875.3人	55.5人	2,930.8人
1日当たり平均調剤数	入院 929剤、 外来 634剤、 合計 1,563剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齲蝕の修復に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着、眼瞼癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼瞼天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードⅤの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頸椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のあるもの(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
ケラチン病の遺伝子診断(水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節に係るもの)に限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時(初回又は再置換術時に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したのものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したのものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第百七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小臼歯の重度の齶蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	48人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHf)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	166人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	100人
・多発性硬化症	149人	・ウェゲナー肉芽腫症	51人
・重症筋無力症	302人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	57人
・全身性エリテマトーデス	572人	・多系統萎縮症	0人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人
・再生不良性貧血	136人	・膿疱性乾癬	16人
・サルコイドーシス	201人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・筋萎縮性側索硬化症	24人	・原発性胆汁性肝硬変	444人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	374人	・重症急性膵炎	16人
・特発性血小板減少性紫斑病	246人	・特発性大腿骨頭壊死症	67人
・結節性動脈周囲炎	30人	・混合性結合組織病	92人
・潰瘍性大腸炎	466人	・原発性免疫不全症候群	8人
・大動脈炎症候群	0人	・特発性間質性肺炎	9人
・ビュルガー病	113人	・網膜色素変性症	277人
・天疱瘡	65人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	80人	・原発性肺高血圧症	8人
・クローン病	109人	・神経線維腫症	279人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	11人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	25人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・パーキンソン病関連疾患	345人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	45人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	123人
・後縦靭帯骨化症	135人	・副腎白質ジストロフィー	4人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年間57回		
剖 検 の 状 況	剖検症例数	63 例	剖検率 13.4 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

I 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断精度向上に関する研究	田尻 久雄	消化器・肝臓内科	100万円	補・委 厚生労働省科学研究費
2	膵臓癌に対する改良型融合細胞と化学療法併用による新規治療法の開発	田尻 久雄	消化器・肝臓内科	200万円	補・委 日本私立学校振興・共済事業団
3	運動神経細胞の選択的脆弱性に関する分子細胞機構の解明	河野 優	神経内科	100万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金若手研究 (B)
4	腎疾患における低酸素応答機構の解析と血管再生医療の応用について	宇都宮保典	腎臓・高血圧内科	117万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究 (C)
5	BMPの糸球体発生および糸球体障害における役割	宮崎陽一	腎臓・高血圧内科	143万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究 (C)
6	異種胎児を用いた自己間葉系幹細胞由来クローン腎臓作成法の開発	横尾 隆	腎臓・高血圧内科	130万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究 (C)
7	CD26に基づく難治性糸球体腎炎の治療応用への基礎的研究	小林政司	腎臓・高血圧内科	208万円	補・委 文部科学省科研費、若手研究 (B)
8	破骨細胞阻害因子ノックアウトマウスのリン調節の解明	大城戸一郎	腎臓・高血圧内科	91万円	補・委 文部科学省科研費、若手研究 (B)
9	IgA腎症をはじめとする糸球体腎炎の発症の進展におけるLIGHTの役割の解明	上田裕之	腎臓・高血圧内科	117万円	補・委 文部科学省科研費、若手研究 (B)
10	核内レセプターの新規機能解析と構造情報に基づいた線維化疾患治療法の開発	横山啓太郎	腎臓・高血圧内科	1000万円	補・委 文部科学省ターゲットタンパク研究
11	循環器系シグナルーム解析による疾患・病態解明のための基盤研究	吉村 道博	循環器内科	200万円	補・委 厚生労働省科循環器病研究委託事業
12	動脈硬化性疾患の危険因子の性差と予防に関するコホート研究	吉村 道博	循環器内科	100万円	補・委 厚生労働省循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
13	循環器疾患におけるアルドステロンの病態生理学的研究	吉村 道博	循環器内科	182万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究C
14	心筋におけるプロテインキナーゼCとカルモデュリン依存性キナーゼのカップリング	小武海公明	循環器内科	65万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究C
15	アンジオテンシンⅡにより惹起される不整脈源性心房内炎症とその分子生物学的機序の解明	伊達太郎	循環器内科	200万円	補・委 武田科学振興財団一般研究奨励
16	高齢者における生体防御の予防法と免疫老化レベルの標準化に関する研究	中山 勝敏	呼吸器内科	85万円	補・委 厚生労働省長寿衣料研究委託事業
17	酸化ストレス制御による高齢者呼吸器疾患の新たな治療法の確立	中山 勝敏	呼吸器内科	234万円	補・委 独立行政法人日本学術振興会19年度科学研究費補助金
18	肺損傷と再生における末梢気道の役割とナノテクノロジーを用いた治療法の研究	桑野 和善	呼吸器内科	580万円	補・委 独立行政法人日本学術振興会19年度科学研究費補助金
19	TGF-βによる肺上皮細胞老化とその影響	桑野 和善	呼吸器内科	40万円	補・委 厚生労働省特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患研究班
20	総合診療・プライマリケア領域におけるうつ病性障害と健康関連QOLとの関連	松島 雅人	総合診療部	52万円	補・委 文部科学省科学研究費(基盤研究(C))
21	ラミニンプロモーター遺伝子の心筋症、腎硬化症、糖尿病病態発症に関する研究	鈴木 英明	総合診療部	60万円	補・委 文部科学省科学研究費(基盤研究(C))
22	小児気管支喘息重症発作に対するイソプロテレノール持続吸入療法の検討(サルブタモール持続吸入療法を対照とした多施設共同盲検ランダム化比較試験)	勝沼俊雄	小児科	直接経費 43,124,000円 間接経費 12,937,000円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業
23	休職に至る就労者を取り巻く環境と就労者の特性について	中村 晃士	精神神経科	80万円	補・委 文部省科学省科研費、若手研究B
24	認知症の長期予後に関する疫学的研究	角 徳文	精神神経科	50万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究C

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
25	睡眠医療における医療機関連携のガイドラインの有効性検証に関する研究	伊藤洋	精神神経科	60万円	補・委 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
26	薬物依存の形成・維持・再発の脳内神経学的機序と新規治療の開発に関する研究	宮田久嗣	精神神経科	70万円	補・委 平成20年度文部科学省科学研究費補助金
27	ニコチン依存の形成と維持における環境刺激の関与についての研究—学習・記憶の脳内機構の観点から—	宮田久嗣	精神神経科	200万円	補・委 (財)喫煙科学研究財団研究助成金
28	精神科医療における発達精神医学的支援に関する研究	小野和哉	精神神経科	90万円	補・委 厚生労働省委託費研究 国立精神神経センター
29	てんかんの合併障害に対する治療の標準化に関する研究	須江洋成	中央検査部	70万円	補・委 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
30	レンチウイルスベクターシステムによるクラッペ病遺伝子治療	小林 博司	小児科	直接経費 1,700,000円 間接経費 510,000円	補・委 科学研究費補助金 基盤研究C
31	マウスを用いた右心不全の機能解析とその特異性を加味した治療法の確立	浦島 崇	小児科	直接経費 1,000,000円 間接経費 300,000円	補・委 科学研究費補助金 若手研究B
32	小児救急のあり方に関する研究	衛藤義勝	遺伝病(ライソゾーム病)研究講座(総合診療部)	直接経費 700万円 間接経費 0円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金 医療安全・評価総合研究事業
33	ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	衛藤義勝	遺伝病(ライソゾーム病)研究講座(総合診療部)	直接経費 3,500万円 間接経費 0円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
34	ライソゾーム病の酵素補充療法における酵素製剤に対する免疫寛容誘導法の開発	衛藤義勝	遺伝病(ライソゾーム病)研究講座(総合診療部)	直接経費 170万円 間接経費 51万円	補・委 科学研究費補助金 基礎研究C
35	神経皮膚症候群に関する調査研究	中川 秀己	皮膚科	100万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金
36	性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究	本田 まりこ	皮膚科	100万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
37	ユビキタス・インターネットを活用したアレルギー疾患の自己管理および生活環境改善支援システム、遠隔教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究	中川 秀己	皮膚科	160万円	厚生労働科学研究費補助金
38	神経線維腫症1の各腫瘍における原因遺伝子とマーカー遺伝子の同定	延山 嘉真	皮膚科	182万円	文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)
39	水痘带状疱疹ウイルス次世代ワクチン開発の基礎研究	伊東 秀記	皮膚科	208万円	文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)
40	慢性肝不全治療のための埋め込み型人工肝臓の開発および腎臓の肝臓化	矢永 勝彦	外科	290万円	文部科学省 科学研究費(基盤研究(B))
41	ヒト分離培養胆道上皮細胞を用いた人工胆道モデルの作成と胆管損傷修復機序の解明	石田 祐一	外科	80万円	文部科学省 科学研究費(基盤研究(C))
42	新たなbFGFアガロース徐放剤を用いた人工血管治癒促進・吻合部狭窄予防の基礎研究	石田 厚	外科	180万円	文部科学省 科学研究費(基盤研究(C))
43	ジエチルニトロソアミン誘発ラット肝発癌モデルにおけるT-614の効果	坂本 太郎	外科	130万円	文部科学省 科学研究費(若手研究(B))
44	低出力超音波刺激を用いた再建靭帯成熟過程の促進	丸毛 啓史	整形外科	195万円	文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
45	新たな骨粗鬆症モデル(骨血管相関モデル)の確立	斎藤 充	整形外科	182万円	文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
46	高齢者の腰痛に及ぼす脊柱変性、生活習慣要因および生活習慣病の影響と相互作用の解明	斎藤 充	整形外科	60万円	厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業
47	脳腫瘍に対する温度可逆性ポリマーを用いたドラッグデリバリーシステムの開発	常喜達裕	脳神経外科	130万円	文科省科学研究費
48	発達期における骨格系と脳脊髄液循環動態の発生学的特性に基づく高次脳脊髄機能障害の治療および総合医療に関する研究	大井静雄	脳神経外科	650万円	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
49	硬組織再建一超小型自動骨延長器の開発とその最適な延長環境の検証一	酒井 新介	形成外科	50万円	文部科学省 科学研究費 若手研究(A)

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
50	遺伝子解析による四肢先天異常・頭蓋骨早期癒合症の解明	田中 誠児	形成外科	90万円	補・委 文部科学省科学研究費 若手研究 (B)
51	発達期における骨格系と脳脊髄液循環動態の発生学的特性に基づく高次脳脊髄機能障害の治療および総合医療に関する研究	田中 忠夫	産婦人科	70万円	補・委 厚生労働省 精神・神経疾患研究委託事業
52	不育症治療に関する再評価と新たな治療法の開発に関する研究	田中 忠夫	産婦人科	85万円	補・委 厚生労働科学研究費補助金
53	抗リン脂質抗体による子宮内胎児発育遅延の病態解明と治療法の検討	田中 忠夫	産婦人科	200万円	補・委 東京産婦人科医会 おぎゃ一献金基金
54	進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の確立に関する研究	落合和徳	産婦人科	110万円	補・委 厚生労働省
55	ホルモン抵抗性前立腺癌に対する遺伝子治療の開発	清田 浩	泌尿器科	170万円	補・委 文部科学省研究補助金 基盤研究C
56	SNDIの前立腺癌における生物学的意義の解明と治療への応用	木村高弘	泌尿器科	170万円	補・委 文部科学省研究補助金 若手研究 (B)
57	前立腺癌における癌幹細胞同定と解明	三木 淳	泌尿器科	170万円	補・委 文部科学省研究補助金 若手研究 (B)
58	新規膀胱癌マーカー蛋白質プリペラキンの尿細胞診への応用と膀胱癌における機能解析	佐々木 裕	泌尿器科	170万円	補・委 文部科学省研究補助金 若手研究 (B)
59	前立腺癌の広範囲プロテオミクス解析による新規血清マーカーの探索	鎌田裕子	泌尿器科	100万円	補・委 文部科学省研究補助金 若手研究 (B)
60	遺伝的背景の探索による前立腺癌の原因遺伝子探求と発癌機構の究明	山田裕紀	泌尿器科	50万円	補・委 財団法人鈴木医学振興財団 研究助成金
61	前立腺癌における癌幹細胞同定と解明	三木 淳	泌尿器科	50万円	補・委 前立腺研究財団 研究助成
62	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立	颯川 晋	泌尿器科	30万円	補・委 厚生労働科学研究費助成金「がん臨床研究事業」

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
63	ヒトの視覚野における高空間分解機能的磁気共鳴イメージング (fMRI) の研究	吉田正樹	眼科	100万円	補・委 独立行政法人日本学術振興会平成20年度科学研究費補助金
64	網膜ジストロフィにおける遺伝子異常と疾患表現型の相関研究	林 孝彰	眼科	143万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究C
65	輝度情報処理のダイナミズムと羞明のメカニズムの解明	堀口浩史	大学院医学研究科・神経感覚機能病態治療学・眼科学	60万円	補・委 文部科学省・科学研究費補助金(特別研究員奨励費)
66	人工中耳粘膜移植とドラッグデリバリーシステムの融合による新しい鼓室形成術式の研究	小島 博己	耳鼻咽喉科	80万円	補・委 科学研究費補助金
67	弛緩部型中耳真珠腫の発症・進展機序の解明と予防・治療に関する研究	森山 寛	耳鼻咽喉科	120万円	補・委 科学研究費補助金
68	立体内視鏡とステレオナビゲーションの重畳表示画像を用いた鼻副鼻腔術式の研究	鴻 信義	耳鼻咽喉科	100万円	補・委 科学研究費補助金
69	組織再生工学を用いた人工鼓膜の作成と中耳真珠腫の病態解明	田中 康広	耳鼻咽喉科	110万円	補・委 科学研究費補助金
70	ヒジエテック解析に基づく慢性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略の開発	吉川 護	耳鼻咽喉科	140万円	補・委 科学研究費補助金
71	真菌による好酸球性副鼻腔炎の発症とその病態解明に関する研究	松脇 由典	耳鼻咽喉科	30万円	補・委 科学研究費補助金
72	培養細胞シートを用いた中耳粘膜再生の試み 移植用シートの開発とその臨床応用	山本 和央	耳鼻咽喉科	70万円	補・委 科学研究費補助金
73	好三矯正副鼻腔炎の病態解明 制御性T細胞とIL-17産生性T細胞の関与について	浅香 大也	耳鼻咽喉科	100万円	補・委 科学研究費補助金
74	fMRI, NRISの結果から考える経頭蓋磁気刺激による失語症改善促進の研究	安保雅博	リハビリテーション科	1,014万円	補・委 文部科学省 基盤研究(B)
75	座位姿勢での耐圧分散と歩行能力の関係について	辰濃 尚	リハビリテーション科	286万円	補・委 文部科学省 若手(B)

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
76	顎関節の痛みに対する消炎鎮痛効果判定基準に関する感度検証	杉崎正志	歯科	5万円	補・委 日本歯科医学会
77	「新たなマウス肺高血圧モデルの作成とRNA干渉を利用した治療法の開発」	上園 晶一	麻酔部	60万円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究 (C)
78	「吸入麻酔薬による興奮の分子機構の解明」	安井 豊	麻酔部	180万円	補・委 文部科学省 科学研究費 若手研究 (B)
79	がんの診断治療用光学機器の開発	貝瀬 満	内視鏡科	180万円	補・委 厚生労働省がん研究助成金
80	拡大内視鏡による消化器がんの早期診断法の確立に関する研究	加藤智弘 郷田憲一	内視鏡科	100万円	補・委 厚生労働省がん研究助成金
81	超拡大内視鏡による消化管神経叢の生体内観察	炭山和毅	内視鏡科	100万円	補・委 東京慈恵会医科大学 (研究奨励費)
82	副作用報告システム構築に関する研究	星 順隆	輸血部	85万円	補・委 厚生労働科学研究費補助金
83	ヘモビジランスのための病院内輸血副作用監視体制に関する研究	田崎 哲典	輸血部	100万円	補・委 厚生労働科学研究費補助金

合計 83 件

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Clin Exp Immunol 2009;156:344-52	Antigenic stimulation with cytochrome P450 2J expressed in mouse hepatocellular carcinoma cells regulates host antitumor immunity.	Homma S, Koido S, Takahara A, Tajiri H, et al.	消化器・肝臓内科
2	Immunotherapy 2009;1:49-62	Cancer immunotherapy by fusions of dendritic cells and tumor cells.	Koido S, Hara E, Homma S, Ohkusa T, Gong J, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
3	J Transl Med 2008;6:51	In vitro generation of cytotoxic and regulatory T cells by fusions of human dendritic cells and hepatocellular carcinoma cells.	Koido S, Homma S, Takahara A, Tajiri H, et al.	消化器・肝臓内科
4	Arch Immunol Ther Exp 2007;55:281-7	Dendritic/tumor fusion cell-based vaccination against cancer.	Koido S, Hara E, Homma S, Fujise K, Gong J, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
5	J Immunol. 2007;179:4874-83	Synergistic induction of antigen-specific CTL by fusions of TLR-stimulated dendritic cells and heat-stressed tumor cells.	Koido S, Hara E, Homma S, Takahara A, Tajiri H, et al.	消化器・肝臓内科
6	JMAJ 2008; 51:199-203	Recent Advances in Electronic Endoscopes: Image-enhanced endoscopy.	Tajiri H, Niwa H.	消化器・肝臓内科
7	J Neurol Sci 2008; 264:195-7.	Pramipexole induced antecollis in Parkinson's disease.	Suzuki M, Hirai T, Ito Y, Sakamoto T, Oka H, Kurita A, Inoue K.	神経内科
8	J Neuropathol Exp Neurol 2008; 67:1072-83.	Incidence and extent of Lewy body-related alpha-synucleinopathy in aging human olfactory bulb.	Sengoku R, Saito Y, Ikemura M, Hatsuta H, Sakiyama Y, Kanemaru K, Arai T, Sawabe M, Tanaka N, Mochizuki H, Inoue K, Murayama S.	神経内科
9	Muscle Nerve 2009;39: 101-5.	Immune-mediated myositis in Crohn's disease.	Shimoyama T, Tamura Y, Sakamoto T, Inoue K.	神経内科
10	神経内科2008;68(4):389-92.	パーキンソン病の嗅覚障害;線香を用いた簡便法.	持尾聰一郎, 豊田千純子, 磯部建夫, 岡尚省, 佐藤浩則.	神経内科
11	Clin Nephrol 2008; 70: 306-11.	Osteoprotegerin affects the responsiveness of FGF-23 to high oral phosphate intake.	Kagami S	腎臓・高血圧内科
12	Clin Transplant 2008; 22(Suppl 19): 68-71.	Effects of anti-hypertensive treatment on graft function and proteinuria in a kidney transplant from an elderly hypertensive donor.	Kobayashi A	腎臓・高血圧内科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
13	Pathol Int 2008; 58: 295-9.	Clinical Research Center, Chiba-East National Hospital. Galactosialidosis associated with IgA nephropathy: morphological study of renal biopsy.	Koike K	腎臓・高血圧内科
14	Kidney Int 2008; 73: 826-34.	T-type calcium channel blockade as a therapeutic strategy against renal injury in rats with subtotal nephrectomy.	Sugano N	腎臓・高血圧内科
15	Nephrol Dial Transplant 2009; 24: 690-1.	Regression of parathyroid gland swelling by treatment with cinacalcet.	Terawaki H	腎臓・高血圧内科
16	Hypertens Res 2008; 31: 2129-35.	Masked hypertension determined by self-measured blood pressure at home and chronic kidney disease in Japanese general population: The Ohasama study.	Terawaki H	腎臓・高血圧内科
17	Biochem J 2008; 413: 193-200.	The tyrosine phosphatase CD148 interacts with the p85 regulatory subunit of phosphoinositide 3-kinase.	Tsuboi N	腎臓・高血圧内科
18	Nephrol Dial Transplant 2009; 24: 892-9.	Changes in the glomerular density and size in serial renal biopsies during the progression of IgA nephropathy.	Tsuboi N	腎臓・高血圧内科
19	Perit Dial Int 2008; 28 (Suppl 3): S128-30.	Differences in corrective mode for divalent ions and parathyroid hormone between standard- and low-calcium dialysate in patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis--result of a nationwide survey in Japan.	Yamamoto H	腎臓・高血圧内科
20	Transplantation 2008; 85: 1654-8.	Generation of transplantable erythropoietin-producer derived from human mesenchymal stem cells.	Yokoo T	腎臓・高血圧内科
21	関東リウマチ2008;41:34-40	間質性膀胱炎を発症したSLE, シェーグレン症候群の一例	高橋英吾, 平井健一郎, 吉田健, 金月勇, 黒坂大太郎	リウマチ・膠原病内科
22	Mod Rheumatol 2009; 19(2): 187-91	Correlation between synovial blood flow signals and serum vascular endothelial growth factor levels in patients with refractory rheumatoid arthritis refractory rheumatoid arthritis.	Kurosaka D, Hirai K, Nishioka M, Miyamoto Y, Yoshida K, Takahashi E, Ukichi T, Noda K, Yanagimachi M, Furuya K.	リウマチ・膠原病内科
23	Am J Respir Crit Care Med.	Hypoxemia in inferior pulmonary veins in supine position is dependent on obesity.	Yamane T	循環器内科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
24	J. Biol. Chem.	Interaction of Scaffolding Adaptor Protein Gab1 with Tyrosin Phosphatase SHP2 Negatively Regulates IGF-I-dependent Myogenic Differentiation via the ERK1/2 Signaling Pathway	Koyama T,	循環器内科
25	Circ J	High incidence of repeat anginal attacks despite treatment with calcium-channel blockers in patients with coronary spastic angina.	Ogawa T	循環器内科
26	Curr Pharm Des	Cardiac metabolism in diabetes mellitus	Yoshimura M	循環器内科
27	Immun., Endoc. & Metab. Agents in Med. Chem.	Role of statins on the prevention of coronary spasm.	Yoshimura M	循環器内科
28	Circ J	Angiographic and Clinical Outcomes after Sirolimus-Eluting Stents Implantation to De novo Ostial Lesion of Right Coronary Artery. - A Retrospective Study -	Sakamoto H	循環器内科
29	J Cardiovasc Electrophysiol	Maintenance of atrial fibrillation by pulmonary vein tachycardia with ostial conduction block: evidence of an interpulmonary vein electrical connection.	Matsuo S	循環器内科
30	Pacing Clin Electrophysiol	The dormant epicardial reconnection of pulmonary vein: an unusual cause of recurrent atrial fibrillation after pulmonary vein isolation.	Matsuo S	循環器内科
31	Circ J	Prevalence, morphological and electrophysiological characteristics of confluent inferior pulmonary veins in patients with atrial fibrillation.	Yamane T	循環器内科
32	Circ J	Inhibition of the renin-angiotensin system prevents re-hospitalization of heart failure patients with preserved ejection fraction.	Komukai K	循環器内科
33	癌と化学療法 2008;35 Suppl. I :22-24	硬膜外皮下ポートによる在宅疼痛コントロールの検討	目澤秀俊, 井上大輔, 永崎栄次郎, 小林直, 柵山年和, 相羽恵介	腫瘍・血液内科
34	癌と化学療法 2008;35 Suppl. I :10-12	膵臓癌IVb期で在宅ケアの継続が困難になった症例	瀬戸愛生, 井上大輔, 柵山年和, 荒川泰弘, 市場保, 相羽恵介	腫瘍・血液内科
35	Gan To Kagaku Ryoho. 2009 Mar;36 (3) :453-60.	Importance of the primary physician for pain management in patients with recurrent advanced cancer--a questionnaire survey]	Konishi T, Sasaki T, Aiba K, Fukutomi T, Kakegawa K, Okubo T.	腫瘍・血液内科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
36	Int J Clin Oncol. 2008 Dec;13(6):545-51.	Successful treatment of advanced gallbladder cancer with an anticancer drug S-1: assessment based on intratumoral gene.	Kitajima K, Kobayashi S, Shiba H, Uwagawa T, Ishida Y, Aiba K, Kawakami M, Yanaga K.	腫瘍・血液内科
37	J Am Geriatr Soc 2009 57: 169-170.	Hichuekikito improves systemic inflammation and nutritional status in obstructive pulmonary disease.	Tatsumi K, Nakayama K, et al.	呼吸器内科
38	J Immunol 2008 180: 6262-9.	Identification of pendrin as a common mediator for mucus production in bronchial asthma and chronic obstructive pulmonary disease.	Nakao I, Nakayama K, et al.	呼吸器内科
39	Expert Rev Resp Med 2008 2: 573-582.	Epithelial cell fate following lung injury.	Kuwano K, Nakayama K, et al.	呼吸器内科
40	Pulm Pharmacol Ther 21:401-8, 2008.	The role of collagenases in experimental pulmonary fibrosis.	Ouchi H, Fujita M, Ikegame S, Kuwano K, et al.	呼吸器内科
41	Histochem Cell Biol 129:401-8, 2008.	Dual-immunohistochemistry provides little evidence for epithelial-mesenchymal transition in pulmonary	Yamada M, Kuwano K, Maeyama T, Hamada N, et al.	呼吸器内科
42	Am J Respir Cell Mol Biol. 39:440-7, 2008.	The Role of High Mobility Group box1 in Pulmonary Fibrosis.	Hamada T, Maeyama T, Kuwano K, et al.	呼吸器内科
43	Respirology. 13:639-45, 200	Recombinant Human erythropoietin reduces epithelial cell apoptosis and attenuates bleomycin-induced	Yoshimi M, Maeyama T, Kuwano K, et al.	呼吸器内科
44	World Journal of Gastroenterology 2008; 14: 2044-2048	Serum type IV collagen level is predictive for esophageal varices in patients with severe alcoholic disease.	Mamori S, Searashi Y, Matsushima M, Hashimoto K, Uetake S, Matsudaira H, Ito S, Nakajima H, Tajiri H.	総合診療部
45	睡眠医療 2008; 2(3): 285-9	不眠症の診断・治療・連携ガイドライン	山寺 亘、伊藤洋、井上雄一、神林崇、田ヶ谷浩邦、亀井雄一	精神神経科
46	睡眠医療 2008; 2(3): 296-303	概日リズム睡眠障害の診断・治療・連携ガイドライン	田ヶ谷浩邦、伊藤洋、井上雄一、亀井雄一、内村直尚、古田壽一、山寺 亘、小鳥居望	精神神経科
47	最新医学別冊新しい診断と治療のABC56「睡眠・覚醒障害」 2008; 69-8	不眠症	山寺 亘、伊藤洋	精神神経科
48	月刊地域保健 2008; 9月号: 53-7	不眠症	山寺 亘、伊藤洋	精神神経科
49	日本医師会雑誌 2008; 137(10): 1417-21	不眠症の診断と治療	山寺 亘、伊藤洋	精神神経科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
50	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費「睡眠障害医療における政策医療ネットワーク構築のための医療機関連携のガイドライン作成に関する研究」平成17～19年度総括研究報告書 2008：89-102	不眠症診断・治療・医療連携ガイドライン	山寺 亘、伊藤洋、井上雄一、神林崇、田ヶ谷浩邦、亀井雄一	精神神経科
51	13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting. Program & Abstracts, 2008; 321	The Clinical Investigations of Team Treatment for breathing-related sleep disorders in Jikei university hospital	Yamadera W, Aoki R, Ochiai Y, Harada D, Obata K, Aoki K, Sato M, Obuchi K, Ozone M, Itoh H, Nakayama K	精神神経科
52	J Psychopharmacol 2008; 10 (3) : 1-4.	Effect of distigmine bromide on the central cholinergic system.	Nakayama K, Katsu H, Kitasumi K.	精神神経科
53	Ann NY Acad Sci, 2008; 1139: 458-65.	Psychosocial withdrawal characteristics of nicotine compared with alcohol and caffeine.	Miyata H, Hironaka N (Erato), Takada K. (Teikyo Univ), Miyasato K (Funomori Cli), Nakamura K (Int Univ), Yanagita T.	精神神経科
54	Anticancer Res 2008; 28:2433-2436	Clonazepam for Chemotherapy-induced Nausea and Vomiting (CINV).	Koga M, Nakadozono M, Nukariya K, Nogi H, Kobayashi T, Nakayama K.	精神神経科
55	日本森田療法学会雑誌 2008;19(2):157-68.	森田療法の成立に先立つ「祈禱性精神症(病)」研究の意義。	中山和彦.	精神神経科
56	女性心身医学会雑誌 2009;14(1)27-30.	女性の不安と森田療法.	中山和彦.	精神神経科
57	臨床精神医学 2009;38(3):327-34.	森田療法を生み出した時代とその臨床的背景を探るー森田療法の成立に先立つ「祈禱性精神症(病)」研究の意義ー.	中山和彦、忽滑谷和孝、小野和哉.	精神神経科
58	脳 2009;12(2):1-6.	薬理作用からみた新規抗精神病薬の臨床特性：特に意欲と動機づけの保護作用の観点から.	宮田久嗣.	精神神経科
59	日本神経精神薬理学雑誌 2008;28(4):149-58.	喫煙およびニコチンと精神神経疾患ーニコチン性アセチルコリン受容体の役割についてー.	宮田久嗣.	精神神経科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
60	精神神経学雑誌 2008;110(8):698-705.	ドイツ医学とイギリス医学の対立が生んだ森田療法。-森田理論をその源流から探る-	中山和彦	精神神経科
61	東京精神科病院協会誌 2008;23:30-7.	薬理作用からみた第二世代抗精神病薬の臨床特性と使い分け.	宮田久嗣	精神神経科
62	Dementia and Geriatric Cognitive Disorders 2008; 25: 439-444	Cognitive function and psychiatric symptoms in early-onset frontotemporal dementia and late-onset frontotemporal dementia	Shinagawa S.	精神神経科
63	International Psychogeriatrics 2009; 21(3): 520-525	Characteristics of eating and swallowing problems in patients who have dementia with Lewy bodies	Shinagawa S.	精神神経科
64	老年精神医学雑誌 2008; 19(9): 1009-15	性嗜好異常を主訴とし、その後の経過で進行性核上性麻痺と診断された一例	品川俊一郎、角 徳文、中山和彦	精神神経科
65	Alzheimer's Disease: New Research 2008; 139-151	Association between depression and Alzheimer's disease	Tsuno N.	精神神経科
66	臨床精神医学 2009;37(9):1235-1240	大うつ病性障害を呈したアスペルガー障害の青年期症例	小野和哉	精神神経科
67	Mol Genet Metab. 2008;94(3):313-8.	Reduced alpha-Gal A enzyme activity in Fabry fibroblast cells and Fabry mice tissues induced by serum from antibody positive patients with Fabry disease.	Ohashi T, Iizuka S, Ida H, Eto Y.	遺伝病(ライソゾーム病)研究講座(総合診療部)
68	J Inherit Metab Dis. 2008 Jan 21	Clinical manifestations and natural history of Japanese heterozygous females with Fabry disease.	Kobayashi M, Ohashi T, Sakuma M, Ida H, Eto Y.	遺伝病(ライソゾーム病)研究講座(総合診療部)
69	Acta Paediatr Suppl. 2008 Apr;97(457):5-6.	Lysosomal storage diseases: new challenges	Scarpa M, Eto Y.	遺伝病(ライソゾーム病)研究講座(総合診療部)
70	小児科診療. 診断と治療社 2009(72)1:13-16.	臨床遺伝・分子遺伝学の最近の進歩	衛藤義勝	遺伝病(ライソゾーム病)研究講座(総合診療部)
71	日本プランニングセンター 2008(14)11:48-50.	ポンペ病の診断・治療のガイドラインと患者・家族の抱える問題点、難病と住宅ケア.	衛藤義勝	遺伝病(ライソゾーム病)研究講座(総合診療部)

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
72	新領域別症候群No. 9 呼吸器症候群(代2版) 663-79	先天性(遺伝性)代謝疾患 先天性脂質代謝異常症	衛藤義勝	遺伝病(ライソソーム病)研究講座(総合診療部)
73	J Vasc Surg 2008;47(4):899.	Endoleaks after endovascular aneurysm repair lead to nonuniform intra-aneurysm sac pressure.	Ohki T.	外科
74	Endovascular today 2008 May p 4	Editorial. Popliteal artery interventions.	Ohki T.	外科
75	Endovascular today 2008 September p 4	Editorial. Evaluating thoracic aortic therapy.	Ohki T.	外科
76	Vascular Med 2008;13:305-11.	Endotension following endovascular aneurysm repair.	Toya N, Fujita T, Kanaoka Y, Ohki T.	外科
77	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2008Aug;56(8):413-6.	Anomalous pulmonary vein detected using three dimensional computed tomography in a patient with lung cancer undergoing thoracoscopic lobectomy.	Akiba T, Marushima H, Kobayashi S, Harada J, Morikawa T.	外科
78	Surg Today 2008Sep;38(9):841-3.	Preoperative evaluation of a tracheal bronchus by three-dimensional 64-row multidetector-row computed tomography (MDCT) bronchography and angiography: report of a case.	Akiba T, Marushima H, Takagi M, Odaka M, Harada J, Kobayashi S, Morikawa T.	外科
79	J Thorac Oncol 2008Nov;3(11):1245-50.	Pulmonary ground-glass opacity (GGO) lesions - large size and a history of lung cancer are risk factors for growth.	Hiramatsu M, Inagaki Takuya, Inagaki Tomoya, Matsui Y, Satoh Y, Okumura S, Ishikawa Y, Miyaoka E, Nakagawa K.	外科
80	Langenbecks Arch Surg 2008Jul;393(4):487-491.	Impact of appropriateness of initial antibiotic therapy on outcome of postoperative pneumonia.	Fujita T, Ishida Y, Yanaga K.	外科
81	Dig Surg 2008;25:175-178.	Usefulness of pancreatic duct tenting prior to surgery as a guide to decide the feasibility of limited pancreatic resection.	Okamoto T, Gocho T, Futagawa Y, Fujioka S, Yanaga K, Ikeda K, Kakutani H, Tajiri H.	外科
82	Ann Surg Oncol 2008;15(8):2129-2136.	PDGF-BB is a novel prognostic factor in colorectal cancer.	Nakamura Y, Tanaka F, Yoshikawa Y, Mimori K, Inoue H, Yanaga K, Mori M.	外科
83	World J Gastroenterol 2008;14(17):2740-7.	Hepatic reconstruction from fetal porcine liver cells using a radial flow bioreactor.	Ishii Y, Saito R, Marushima H, Ito R, Sakamoto T, Yanaga K.	外科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
84	Jikei Med J 2009Mar;56:11-17.	Sentinel node navigation surgery for early malignant tumor of the duodenum.	Mitsumori N, Nimura H, Takahashi N, Watanabe A, Sasaki T, Kashiwagi H, Yanaga K.	外科
85	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 2008Apr;18(2):188-91.	A simple and novel technique for the placement of antiadhesive membrane in laparoscopic surgery.	Shinohara T, Kashiwagi H, Yanagisawa S, Yanaga K.	外科
86	Am Surg 2009Feb;75(2):148-51.	Interim results of nutritional support through a button-type jejunostomy after total gastrectomy.	Shinohara T, Fujita T, Suzuki Y, Sano Y, Kashiwagi H, Yanaga K.	外科
87	Heart View 2008;12(1):76-83.	腹部大動脈瘤ステントグラフト治療の実力と今後の展望。【大動脈・末梢血管 インターベンションの現状】	大木隆生.	外科
88	医学のあゆみ 2008;226(10):933-37.	胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト治療。【大動脈瘤 基礎と臨床】	大木隆生.	外科
89	Heart View 2008;12(11):1380-86.	胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト内挿術。【大動脈瘤 成因から治療まで】	大木隆生.	外科
90	日本血管内治療学会誌 2008;9(1):42-47.	腹部大動脈瘤に対するステントグラフト術の現状と展望.	大木隆生.	外科
91	日本外科学会定期学術集会雑誌 2008;109(3):169-72.	腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術(手術のtips and pitfalls).	太田裕貴, 大木隆生.	外科
92	日本老年医学会雑誌 2008;45:372-76.	医学の展望 高齢者における頸動脈狭窄症の治療.	福島宗一郎, 金岡祐司, 大木隆生.	外科
93	肺癌 2008;5:543.	縦隔の筋膜構造からみた縦隔リンパ節区分.	中西浩三, 平松美也子, 松平秀樹, 平野純, 尾高真, 森川利昭.	外科
94	肺癌 2008;3:236-37.	経過観察され完全鏡視下肺葉切除を行った慢性腎不全合併肺癌の1例.	丸島秀樹, 秋葉直志, 小林進, 小峯多雅, 大村光裕, 山口裕, 森川利昭.	外科
95	肺癌 2008;1:77.	気腫肺を背景とした両側肺癌に対する低侵襲手術、胸腔鏡下右上葉切除術後、胸腔鏡下左肺舌区切除術を施行した1例.	稲垣卓也, 矢部三男, 平松美也子, 松平秀樹, 平野純, 尾高真, 中西浩三, 森川利昭.	外科
96	Osteoporosis International 2008;19:1343-1354.	Collagen maturity, glycation induced pentosidine, and mineralization are increased following 3-years treatment of incadronate in dogs.	Saito M, Mori S, Mashiba T, Komatsubara S, Marumo K.	整形外科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
97	Acta Neurochir (Wien) (2008) 150:823-827	Case Report Microelectrode findings and topographic reorganisation of kinaesthetic cells after gamma knife thalamotomy	Terao T, その他	脳神経外科
98	脳神経外科・36巻7号・2008 年 7月	胸郭出口症候群の診断と治療方針—頸 椎疾患との鑑別のための補助診断につ いての検討—	寺尾亨、その他	脳神経外科
99	機能的脳神経外科 Vol. 47, No. 1, 2008	パーキンソン病に対する視床刺激術に おける振戦抑制領域および合併症の出 現機序に対する検討	寺尾亨、その他	脳神経外科
100	脳神経外科速報 第18巻5号 2008年5月10日発行	高周波型バイポーラ器機 (Vesalius Series MCN™) のpoint coagulationと 先端部組織付着における有用性	郭樟吾、石井卓也、 その他	脳神経外科
101	Acta neurolog. belg., 2008, 108, 112-115	Volumetric analysis of a rhabdoid meningioma during preoperative follow-up - A case report	Arai T, その他	脳神経外科
102	Neurologia medico- chirurgica Vol. 48, No. 7, July, 2008	Cortical Laminar Necrosis Caused by Critically Increased Intracranial Pressure in an Infant-Case report-	Akiyama M, Tateshima S Hasegawa Y, Kawachi S Abe T	脳神経外科
103	Neuroradiology	New thermoreversible liquid embolic agent for embolotherapy:technical report	Takao H, Murayama Y, その他	脳神経外科
104	脳神経外科ジャーナル Vol. 17No. 11, November 2008	術中Indocyanine Green蛍光血管造影の 有用性とピットフォール—工学的見地 と臨床医学的見地からの考察—	郭樟吾、石井卓也、 長谷川譲、阿部俊昭	脳神経外科
105	脳神経外科 第37巻第1号 2009年1月10日	脳出血を繰り返した進行性脳静脈血栓 症の 1例	加藤直樹、その他	脳神経外科
106	Jikeikai Med J 2008;55:1- 6	The Therapeutic Efficacy of STI- 571, a c-kit Receptor Tyrosine Kinase Inhibitor, Used in Combination with TNP-470, an Angiogenesis Inhibitor, in the Treatment of Glioma	Tanaka T, Abe T,	脳神経外科
107	脳神経外科 第36巻第7号 2008年7月10日発行	胸郭出口症候群の診断と治療方針—頸 椎疾患との鑑別のための補助診断につ いての検討—	寺尾亨、その他	脳神経外科
108	Neurol Med Chir (Tokyo) 48, 227-230, 2008	Spontaneous Regression of an Asymptomatic Meningioma Associated With Discontinuation of Progesterone Agonist Administration -Case Report-	Shimizu J, Matsumoto M, Yamazaki E, Yasue M	脳神経外科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
109	Neurologia medico-chirurgica Vol. 48, No. 5, May, 2008	Intracystic Hematoma of Middle Fossa Arachnoid Cyst Caused by Rupture of Internal Carotid-Posterior Communicating Artery Aneurysm -Case Report-	Kajiwara I, Tanaka T, その他	脳神経外科
110	Child's Nervous System 24-8; 933-942, 2008	Neuroendoscopic foraminal plasty of foramen of Monro	大井静雄, Yavor Enchov	脳神経外科
111	Jornal of Neurosurg Pediatrics, 3:412-419 2009	Embryo-pathegenetic Surgico-anatomical classification of dysraphism and surgical outcome of spinal lipoma: Nationwide multicenter cooperative study in Japan	大井静雄 他	脳神経外科
112	Neurosurgery 62-2:2008	Application of Neuroendoscopy to Intraventricular Lesiones	P Cappabianca, Oi S et al.	脳神経外科
113	Neurosurgical Review 2008, Jul:31 (3) 249-62	Historical trends of neuroendoscopic surgical technique in the treatment of hydrocephalus	Y Enchov, 大井静雄	脳神経外科
114	Child's Nervous System 2009. May; 25 (5) 521-2	Prenatal diagnosed Cyst of the quadrigeminal cistern in Aicardi syndrome	Columbano L, Luedemann, Oi S, et al.	脳神経外科
115	Stroke March 2008	Effective and Safe Conditions of Low-Frequency Transcranial Ultrasonic Thrombolysis for Acute Ischemic Stroke Neurologic and Histologic Evaluation in a Rat Middle Cerebral Artery Stroke Model	Saguchi T, Onoue H, その他	脳神経外科
116	Volume62, Operative Neurosurgery 1, March 2008	DynaCT Soft-tissue Visualization Using an Angiographic C-Arm System:Initial Clinical Experience in the Operating Room	Irie K, Murayama Y, その他	脳神経外科
117	Neurologia medico-chirurgica Vol. 48 No. 5 2008	慢性被膜化脳内血腫と鑑別困難であった膠芽腫の一例	梶原一輝, 荒川秀樹, その他	脳神経外科
118	日本形成外科学会誌 29 (3) :135-139, 2009.	頸部神経鞘腫の検討	宮脇剛司, 西岡弘記, 増澤源造, 勝畑知之.	形成外科
119	心臓 2008 ; 40 : 749-53	大動脈弁位における生体弁の遠隔成績と選択基準の現況	坂本吉正.	心臓外科
120	Chirurgia 2008;21:189-93	Impact of preoperative left ventricular fibrosis on the mid-term outcome and brain natriuretic peptide after aortic valve replacement	Sakamoto Y, Hashimoto K, Okuyama H, Ishii S, Taguchi S, Naganuma H, Kagawa K, Morita K, Kanazawa T.	心臓外科
121	J Artif Organs 2008;11:163-4	Validity of identifying patient-prosthesis mismatch from the indexed effective orifice area	Sakamoto Y, Hashimoto K, Okuyama H, Ishii S, Taguchi S, Kawada N, Inoue T.	心臓外科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
122	Circulation J 2008;72:2062-8	Active infective endocarditis - Management and risk analysis of hospital death from 24 years' experience-	Hanai M, Hashimoto K, Mashiko K, Sasaki T, Sakamoto Y, Shiratori K, Tanaka K, Yoshitake M, Naganuma H, Shinohara G.	心臓外科
123	心臓 2008;40:450-6	膜性部心室中隔欠損症に対する自己心 膜パッチ閉鎖の検討	篠原 玄、野村耕司、 松村洋高、中村 譲.	心臓外科
124	日本受精着床学会雑誌、 2009年、273-6	当院におけるART治療後の周産期予後	林博ら	産婦人科
125	Int J Clin Oncol 2008; 13:8-11	No increase of breast cancer incidence in Japanese women who received hormone replacement therapy: overview of a case-control study of breast cancer risk in Japan.	Saeki T, Sano M, Komoike Y, Sonoo H, Honjyo H, <u>Ochiai K</u> , Kobayashi T, Aogi K, Sato N, Sawai S, Miyoshi Y, Takeuchi M, Takashima S.	産婦人科
126	Jpn J Clin Oncol. 2008; 38(11):777-85.	Phase II clinical trial of pegylated liposomal doxorubicin (JNS002) in Japanese patients with mullerian carcinoma (epithelial ovarian carcinoma, primary carcinoma of fallopian tube, peritoneal carcinoma) having a therapeutic history of platinum- based chemotherapy: a Phase II Study of the Japanese Gynecologic Oncology Group.	Katsumata N, Fujiwara Y, Kamura T, Nakanishi T, Hatae M, Aoki D, Tanaka K, Tsuda H, Kamiura S, Takehara K, Sugiyama T, Kigawa J, Fujiwara K, <u>Ochiai K</u> , Ishida R, Inagaki M, Noda K.	産婦人科
127	BJU Int. 2008 101(2):175- 80.	The maximum tumour length in biopsy cores as a predictor of outcome after radical prostatectomy.	Hayashi N	泌尿器科
128	Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol 2008 294(5):1510-1516	Association of overactive bladder and stress urinary incontinence in rats with pudendal nerve ligation injury.	Furuta A	泌尿器科
129	Int. Urogynecol J 2008 (9):1229-1234	Physiological effects of human muscle-derived stem cell implantation on urethral smooth muscle function.	Furuta A	泌尿器科
130	J Urol. 181(1):354-62	PTEN knockout prostate cancer as a model for experimental immunotherapy.	Kimura T	泌尿器科
131	臨床眼科	男性先天赤緑色覚異常者における遺伝 子診断の有用性	林 孝彰	眼科
132	臨床眼科	2型3色覚と診断された女性先天赤緑色 覚異常者に対する遺伝子診断の試み	林 孝彰	眼科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
133	Auris Nasus Larynx	Endoscope-assisted surgery via the middle cranial fossa approach for a petrous cholesteatoma.	Kojima Hiromi, Tanaka Yasuhiro, Yaguchi Yuuichiro, Miyazaki Hidemi, Murakami Shingo, Moriyama Hiroshi.	耳鼻咽喉科
134	Auris Nasus Larynx	Middle ear hemangioma: A case report	Kojima H, Yaguchi Y, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
135	International Archives Allergy Immunology	Chronic rhinosinusitis: risk factors for the recurrence of chronic rhinosinusitis based on 5-year follow-up after endoscopic sinus surgery.	Matsuwaki Y, Ookushi T, Asaka D, Mori E, Nakajima T, Yoshida T, Kojima J, Chiba S, Ootori N, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
136	Allergology International	Correlation between the prostaglandin D(2)/E(2) ratio in nasal polyps and the recalcitrant pathophysiology of chronic rhinosinusitis associated with bronchial asthma.	Yoshimura T, Yoshikawa M, Otori N, Haruna S, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
137	耳鼻咽喉科展望	最近の中耳結核症例の検討.	小島博己, 山本和央, 力武正浩, 山口展正, 森山寛.	耳鼻咽喉科
138	耳鼻咽喉科展望	画像ナビゲーションシステムを用いた内視鏡下鼻副鼻腔手術—先進医療としての現状と問題点.	鴻 信義	耳鼻咽喉科
139	耳鼻咽喉科展望	頭蓋底疾患に対する内視鏡下鼻内手術	鴻 信義	耳鼻咽喉科
140	Otology Japan	当科における鼓室形成術IV型の術後聴力成績	田中康広, 志和成紀, 山本和央, 谷口雄一郎, 小島博己, 森山寛.	耳鼻咽喉科
141	耳鼻咽喉科展望	鼓膜緊張部癒着に対するcartilage tympanoplastyの有用性	田中康広, 小島博己, 吉田隆一, 内水浩貴, 山本和央, 森山寛	耳鼻咽喉科
142	Otology Japan	学童期の滲出性中耳炎患者に対するアデノイド切除術の有用性	内水浩貴, 歌橋弘哉, 森山寛	耳鼻咽喉科
143	耳鼻と臨床	進行癌初回治療としての化学(放射線)療法の役割と限界 手術標本病理像から見た化学(放射線)療法の効果 術前化学療法と化学放射線治療(同時・異時)を施行した症例の摘出標本の検討	青木謙祐, 別府武, 川端一嘉, 山本智理子	耳鼻咽喉科
144	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2008. 17. 235-40	DEFUSE Investigators. Optimal outcome measures for detecting clinical benefits of early reperfusion: insights from the DEFUSE Study.	Kakuda W, et al	リハビリテーション科
145	J Cereb Blood Flow Metab. 2008. 28. 887-91	Optimal definition for PWI/DWI mismatch in acute ischemic stroke patients.	Kakuda W, et al	リハビリテーション科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
146	Eur Neurol. 2008. 59. 24-30	Activation of the Prefrontal Cortex during the Wisconsin Card Sorting Test (Keio Version) as Measured by Two-Channel Near-Infrared Spectroscopy in Patients with Traumatic Brain Injury.	Hashimoto K, Uruma G, Abo M.	リハビリテーション科
147	慈恵医大誌. 2008. 123 : 237-247.	左半側空間無視の責任病巣 : Easy Z-score Imaging Systemおよびvoxel based Stereotactic Extraction Estimationを用いた ^{99m} Tc-ECD SPECT解析による検討.	片木宏明, 櫻間剛, 植松海雲, 小林一成, 角田亘, 安保雅博	リハビリテーション科
148	慈恵医大誌. 2008. 123 : 231-235..	合併症により入院した血液透析患者の貧血と低蛋白血症が移動能力に及ぼす影響	石川明菜, 樋口謙次, 安保雅博	リハビリテーション科
149	理学療法学. 2008. 313-317	急性期脳血管障害患者における歩行予後因子の検討—発症10日目の座位保持能力から—.	樋口謙次, 安保雅博	リハビリテーション科
150	リハ医学. 2008. 45. 291-5	リハビリテーション医学施設における胃瘻カテーテル交換に対する実態調査	百崎良, 菅原英和, 佐々木信幸, 安保雅博, 木村知行	リハビリテーション科
151	日顎誌20(2):127-133,2008.	東京都内就労者における質問票による顎関節症有病者率調査	杉崎正志, 高野直久 (東京都歯科医師会)、木野孔司 (東医歯大)、林勝彦、齋藤高、他	歯科
152	日顎誌20(2):157-165,2008.	顎関節症診療ガイドラインにおける”Clinical Question”の系統的把握のための一般開業歯科医師へのアンケート調査	杉崎正志、覚道健治 (大歯大)、木野孔司 (東医歯大)、他	歯科
153	日顎誌21(1) : 18-23,2009.	歯科医療従事者から収集した顎関節種治療に対する”Clinical Question”のアンケート解析	木野孔司 (東医歯大)、杉崎正志、他	歯科
154	日顎誌21(1):11-17.2009	高齢者顎関節症患者の治療後の症状改善の検討—若年者、中年者 (39歳以下) との症型別比較	伊介昭弘、玉井和樹、杉崎正志	歯科
155	日顎誌21(1)18-23,2009.	歯科医療従事者から収集した顎関節症治療に対する”Clinical Question”のアンケート解析—第20回日本顎関節学会学術大会参加者に対する予備調査—	木野孔司、杉崎正志、湯浅秀道、覚道健治	歯科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
156	Journal of Oral Pathology and Medicine	NGF and its receptors TrkA and p75NTR in the epithelium of oral lichen	Katsuhiko Hayashi ^{1, 2} , Andreas Karatsaidis ^{1, 3} , Olav Schreurs ¹ , Tore Bjørnland ⁴ , Masashi Sugisaki ² , Karl Schenck ¹	歯科
157	European Journal of Anaesthesiology (EJA) 2008;25:869-875	Postoperative pain status after intraoperative systemic dexmedetomidine and epidural neostigmine in patients undergoing lower abdominal surgery.	Kida K, et al.	麻酔部
158	Anesthesiology. 2008;108:612-20	Age-related attenuation of isoflurane preconditioning in human atrial cardiomyocytes: roles for mitochondrial respiration and sarcolemmal adenosine triphosphate-sensitive potassium channel activity.	Mio Y, et al.	麻酔部
159	Therapeutic Apheresis and Dialysis. 2008;12(5):372-378	Removal of 2-Arachidonylglycerol by Direct Hemoperfusion Therapy with Polymyxin B Immobilized Fibers Benefits Patients with Septic Shock.	Kase Y, et al.	麻酔部
160	Nephron Clin Pract. 2008;109:c217-23	Outcome prediction for patients with acute kidney injury.	Uchino S.	麻酔部
161	N Engl J Med. 2008;359:1961	Renal support in critically ill patients with acute kidney injury.	Uchino S, et al.	麻酔部
162	J Trauma. 2008;65(1):175-182	Thermodilution and esophageal Doppler ultrasound in the assessment of blood flow changes induced by endotoxin and dobutamine.	Taniguchi Y, et al.	麻酔部
163	医療の質・安全学会誌 2008;3(1):33-37	Rapid Response System(RRS)とは?	内野滋彦.	麻酔部
164	医療安全2009;6(1):32-33	【コードブルーか?RRSか?医療安全対策としての院内急変時対応システム】院内急変対応のシステム用語がわかるQ&A 「RRS」って何?	内野滋彦.	麻酔部
165	日本集中治療医学会雑誌 2009;16(Suppl):179(.01)	集中治療スタッフによるMET(Medical emergency team)/RRT(Rapid response team) Rapid Response System総論.	内野滋彦.	麻酔部

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
166	日本集中治療医学会雑誌 2009;16(Suppl): 210(.01)	CTG委員会からの報告「集中治療医学会としての共同臨床研究の支援 海外の現況を踏まえて」臨床研究に関する日本の現状と今後.	内野滋彦.	麻酔部
167	緩和医療学 2008;10(2):153-158	トラマドール忘れられた良薬.	北原雅樹, 他.	麻酔部
168	日本臨床麻酔学会誌 2008;29(2): 152-159	ペインクリニックのための痛みの評価.	北原雅樹.	麻酔部
169	ペインクリニック 2008;29(4):548	くも膜下皮下ポートを用いた疼痛コントロールの検討.	木田康太郎, 他.	麻酔部
170	Gastrointest Endosc Clin N Am. 2008; 18(2): 235-44.	Techniques for transgastric access to the peritoneal cavity.	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
171	Dis Esophagus 2009; 22: 439-46.	Assessment of novel endoscopic techniques for visualizing superficial esophageal squamous cell carcinoma: autofluorescence and narrow-band imaging.	Yoshida Y, et al.	内視鏡科
172	Dis Esophagus 2009; 22: 453-60.	Magnifying endoscopy with narrow band imaging for predicting the invasion depth of superficial esophageal squamous cell carcinoma.	Goda K, et al.	内視鏡科
173	Gastrointest Endosc 2009; 69(3 Suppl): 726-33.	Numerical analysis of the autofluorescence intensity of neoplastic and non-neoplastic colorectal lesions by using a novel videoendoscopy system.	Aihara H, et al.	内視鏡科
174	臨床消化器内科 2008;23(10):1477-80.	NOTES up date-DDW2008におけるNOTES関連研究報告.	池田圭一, 田尻久雄.	内視鏡科
175	消化器医学 2008;6:89-97.	<i>H.Pylori</i> 感染消化性潰瘍・胃癌におけるメチル化発現と除菌による可逆性についての検討.	山崎琢士, 貝瀬 満, 他.	内視鏡科
176	消化器内視鏡 2009;21(2):281-7.	Confocal Endomicroscopy 下部消化管.	加藤智弘, 貝瀬 満, 田尻久雄.	内視鏡科
177	Intestine 2009;13(2):209-13.	大腸癌の質的・量的診断 NBI拡大観察 慈恵分類 血管模様分類と深達度診断の関係性.	斎藤彰一, 二上敏樹, 他.	内視鏡科
178	Journal of Japanese Council of Traffic Science.2009;8(1):51.	Analysis of severe head injured patients from comparison with traffic and non-traffic accidents in Japan Neurotrauma Date Bank Project2004.	Masahiko UZURA, Kenji OKUNO, Takeki OGAWA.	救急科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
179	日本交通科学協会会誌. 2008;8(1):46-50.	交通事故と非交通事故の比較から見た重症頭部外傷の分析:頭部外傷データベースプロジェクト2004から.	卯津羅雅彦, 奥野憲司, 小川武希.	救急科
180	日本救急医学会関東地方会 雑誌. 2008 ; 29 : 174-175.	経眼窩的穿通性脳損傷の1例.	大瀧佑平, 大槻穰治, 卯津 羅雅彦, 平沼浩一, 武田 聡, 大橋一善, 奥野憲司, 高木聡(神経内科), 吉田裕 志(循環器内科), 大谷圭, 小山勉, 小川武希.	救急科
181	日本交通科学協議会. 2008;1-21.	高齢者東部外傷における高次脳機能障 害.	富田博樹, 平川公義, 有賀 徹, 大賀 優, 小川 武 希, 片山容一, 中村紀夫, 中村 弘, 山浦 晶.	救急科
182	日本臨床スポーツ医学会 誌. 2008 ; 16 : 439-442.	硬式野球ボールによる死球で頭蓋骨骨 折および脳挫傷を生じた1例.	卯津羅雅彦, 大槻穰 治.	救急科
183	癌の臨床	両側副腎転移による副腎不全を初発症 状とした原発性肺癌の1例 文献報告例 の検討を加えて	加藤哲朗 他	感染制御部
184	日本エイズ学会誌	HAART併用化学療法を行った回盲部原発 AIDS関連悪性リンパ腫の2例	加藤哲朗 他	感染制御部
185	日本性感染症学会誌	HIV感染者の梅毒に関する検討	佐藤文哉	感染制御部
186	Transfusion and Apheresis Science 39, 15-19, 2008.	Accumulated cytokines in stored autologous blood do not cause febrile nonhemolytic transfusion reactions.	Tasaki.T., Hoshi. Y.	輸血部
187	Transfusion 2008; 3: 561-566	Selection of hematopoietic stem cells using a combination of carbohydrate- bound polystyrene and soybean agglutinin, a galactose-specific lectin.	Hoshi Y.	輸血部
188	胃と腸 2008; 43 (13) : 1947-55	[大腸癌の発生・発育進展] 大腸癌の 発生・発育進展に関する病理学的解析 組織形態から.	池上雅博, 三戸部慈 実, 小池裕人, 為我井 芳郎.	病院病理部
189	INTESTINE 2009; 13 (2) : 209-13	[大腸癌画像診断の最先端] 大腸癌の 質的・量的診断 NBI拡大観察慈恵分類 血管模様分類と深達度診断の関係性.	斎藤彰一, 二上敏樹, 相原弘之, 荒川廣志, 田尻久雄, 池上雅博.	病院病理部
190	Gastorointest Endosc 2009; 69 (3) : 726-33	Numerical analysis of the autofluorescence intensity of neoplastic and non-neoplastic colorectal lesions by using a novel videoendoscopy system.	Aihara H, Sumiyama K, Saito S, Tajiri H, Ikegami M.	病院病理部
191	日消内視鏡会誌 2009; 51 (1) : 10-9	Narrow Band Imaging (NBI) 拡大観察を 用いた大腸腫瘍性病変の異型度・深達 度診断能の検討.	二上敏樹, 斎藤彰一, 田尻久雄, 池上雅博.	病院病理部

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
192	Mod Pathol 2008; 21(11): 1363-70	The expression of neuro D and mASH1 in the gastroenteropancreatic neuroendocrine.	Shida T, Furuya M, Nikaidou T et. al	病院病理部
193	Int J Gynecol Pathol 2008; 27: 199-206	Immunohistochemical analysis of reserve cell-like cells of ovarian mullerian mucinous mixed epithelial borderline tumor.	Hamada T, Kiyokawa T, Nomura K, Hano H.	病院病理部
194	Histopathology 2008; 53(4): 487-90	Gross features of lobular endocervical glandular hyperplasia in comparison with minimal-deviation adenocarcinoma and stage Ib endocervical-type mucinous adenocarcinoma of the uterine cervix.	Sasajima Y, Kiyokawa T, Hamada T et. al	病院病理部
195	病理と臨 2008; 26(臨増): 310-4	[外科病理マニュアル] 各論 子宮付属器.	清川貴子, 濱田智美.	病院病理部
196	画像診断 2008; 28(7): 639-47	[子宮頸部疾患の画像診断基本から最近の知見まで] 子宮頸部の嚢胞性疾患病理学的視点から.	清川貴子, 濱田智美.	病院病理部
197	病理と臨 2008; 26(臨増): 398-401	[外科病理マニュアル] 私のこだわり・工夫 前立腺全摘術材料の切り出しおよび報告時の工夫.	鈴木正章, 河上牧夫, 佐々木学, 鷹橋浩幸, 原田徹.	病院病理部

合計 197 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 森山 寛	
管理担当者氏名 (担当代表者)	診療に関する 諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
事務部長 今出 進章	管理運営に関する 諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長 財務部長、他関係部署責任者

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者 に係る入院期間中の診療経過要約及び入院 診療計画書		院長室 診療部署単位 〔診療情報室 各科外来 各病棟 フィルム係他〕	科別、入院外来別、年度別、 月別患者登録番号順、日付順 (記録の種類により異なる)	
病院の 管理及び 運営に関 する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課 臨床研修センター 教員・医師人事室		
	高度の医療の提供の実績	診療各科、管理課		
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	診療各科、管理課		
	高度の医療の研修の実績	診療各科、管理課		
	閲覧実績	管理課、業務課		
	紹介患者に対する医療提供 の実績	診療各科		
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	管理課、業務課、薬 剤部		
	掲規 げ則 る第 9 制条 の 確2 保3 則及 のび 状第 1 条の 1 1 各号 に	専任の医療に係る安全管理を 行う者の配置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		専任の院内感染対策を行う者 の配置状況	感染対策室	東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
		医療に係る安全管理を行う部 門の設置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		当該病院内に患者からの安全 管理に係る相談に適切に応じる 体制の確保状況	看護部 (患者相談窓口担当)	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		医療に係る安全管理のための 指針の整備状況	医療安全推進室及 び関係各部署	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		医療に係る安全管理のための 委員会の開催状況	医療安全推進室	医療安全推進室「委員会」ファ イル
		医療に係る安全管理のための 職員研修の実施状況	医療安全推進室	医療安全推進室「教育研修」 ファイル
医療機関内における事故報 告等の医療に係る安全の確保を 目的とした改善のための方策の 状況	医療安全推進室	医療安全推進室「管理」ファイル		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室 東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室 感染対策室「感染対策委員会」 ファイル
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全推進室、 感染対策室 医療安全推進室「教育研修」 ファイル
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室 感染対策室ファイル
		医薬品の使用に係る安全管理のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療安全推進室「教育研修」 ファイル
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 リスクマネジメントマニュアル
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 「病棟部門・手術室部門」、 「外来部門・薬剤部・輸血部等」 ファイル
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療安全推進室「教育研修」 ファイル
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、 中央検査部、リハビリテーション科 医療機器の保守点検に関する 計画の策定及び保守点検の 実施状況(医療機器安全管理責任 者書式-3)ファイル
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 医療機器に係る安全性情報等 (医療機器安全管理責任者書式 -4)ファイル		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	院長 森山 寛	
閲覧担当者氏名 (担当代表者) 事務部長 今出 進章	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
	管理運営に関する 諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長 他関係部署責任者
閲覧の求めに応じる場所	附属病院会議室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	3件
閲覧者別	医 師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 2件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	53.2 %	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A:紹介患者の数	21,601人	
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,019人	
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	5,759人	
	D:初診の患者の数	63,753人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊦(2名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊦(2名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊦・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専任(5)名 兼任(4)名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全推進活動等の教職員への周知 ・ インシデント・アクシデント等の情報の収集、分析、予防・改善策の立案及び実施 ・ 教職員への安全に関する教育・研修の企画、運営 ・ 事故等に関する診療録や看護記録等への記載の確認と助言 ・ 事故等の原因究明の実施の確認と助言 ・ 改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言、コンサルテーション ・ 改善策実施後の評価と周知 ・ リスクマネジメントマニュアルの管理・運用 ・ リスクマネジメント委員会の資料及び議事録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること ・ 医療安全連絡会議の運営に関すること ・ 院内感染対策に関する連携 	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に応じる体制の確保状況	㊦・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊦・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <p>我々医療機関には「患者が安心して医療を受けられる環境を整え、提供すること」が求められている。最も避けるべきは医療を通じて加害することである。それには「人間は必ずミスを冒す」という事実を認識し、個々人の知識・技術の向上に加えて、安全が確保できるシステムの構築が必要である。当院に勤務する全ての教職員及び委託・派遣職員に対して、より安全な医療の提供と患者満足度の向上を第一にした医療活動を再認識させ、安全に対する意識を育み関係法令を遵守した改善・改革を推進していくことを安全管理の基本方針としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメント委員会の設置 ・ 医療問題発生報告制度の運用と評価・分析、医療問題再発防止策の確立 ・ 教育、研修の企画と運営 ・ 問題事例発生時の緊急リスクマネジメント委員会での検証及び対応 	

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

年12回

・ 活動の主な内容

リスクマネジメント委員会

- ・ 医療事故防止対策の検討及び研究に関する事
- ・ 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関する事
- ・ 医療事故防止のために行う提言に関する事
- ・ 医療安全推進のための啓発、教育、広報及び出版に関する事
- ・ 医薬品、医療機器の安全管理及び院内感染対策に関する事
- ・ 医療安全の推進に関する事
- ・ 医療訴訟に関する事
- ・ スタットコールに関する事

フロアリスクマネージャー会議(外来・中央診療部門及び病棟・手術・ICU部門)

- ・ 重大事例、インシデント、アクシデント事例及び警鐘的事例の原因分析並びに再発防止策の検討及び提言・実施に関する事
- ・ 医療問題に関する諸記録の点検に関する事
- ・ 医療事故防止のための啓発、広報等に関する事
- ・ 他の委員会に対する勧告案の検討に関する事
- ・ 医療安全の推進に関する事

4病院リスクマネジメント会議(年4回)

- ・ 附属4病院及び晴海トリートメントクリニックとの連携強化と情報共有のための会議

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年度延開催数60回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容: 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム <ul style="list-style-type: none"> ・「医療安全活動の取り組みー現場からの提案ー」(出席者194名) 4病院合同転倒・転落の勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・「これだけは知っておこう！転倒予防」(出席者171名) 4病院合同感染対策セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・「結核を見逃さないために」(出席者284名) シンポジウム、研修会、セミナー、ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医オリエンテーション(出席者45名) ・リスクマネジメント基礎研修会(3回開催、延べ出席者456名) ・リスクマネジメント研修会(出席者459名) ・新4等級職員研修会(出席者72名) ・薬剤・感染セミナー(6回開催、延べ出席者907名) ・感染対策に関する各部署対象研修会(21回開催、延べ出席者522名) ・MRの安全使用と感染症に関する講習会(出席者69名) ・転倒・転落講演会(出席者384名) ・医療安全推進活動の報告会(出席者163名) ・嚥下障害の勉強会(出席者129名) ・派遣・委託職員リスクマネジメント研修会(出席者172名) ・医療機器の安全使用講習会(15回開催、延べ出席者667名) ・医療の安全教育ワークショップ(4回開催、延べ出席者391名) 	
<p>⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ㊤・無 ・ その他の改善のための方策の主な内容: <ul style="list-style-type: none"> ・院長、医療安全管理部長及び医療安全推進室等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施 ・パソコンによる医療問題発生報告制度の運用 ・教職員に対する医療問題発生時の報告ルートの明示 ・緊急リスクマネジメント委員会での事実確認及び組織的対応の実施 ・リスクマネジメント委員会及びフロアリスクマネージャー会議、医療安全推進室を通じた再発防止策の徹底 ・医療問題分析ツール RCA分析の実施 ・問題種別のワーキンググループによる再発防止対策の立案と実践 ・医療安全院内ラウンドによる評価、検証、フィードバック 報告体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・関東信越厚生局及び東京都福祉保険局、日本医療機能評価機構への適切な報告 ・所轄警察署への報告 ・異状死報告手順の確立とモデル事業への参画 ・医療事故等に関する判定委員会の設置と医療事故等公表基準の整備・運用 	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	㊦ ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための組織 3. 院内感染対策のための教職員に対する研修 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 当該指針の閲覧 7. 院内感染対策推進のために必要なその他の基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 菌検出状況報告と対策の検討 2. 抗菌薬使用状況報告と対策の検討 3. 感染に関する問題発生報告と対策の検討 4. 血液体液汚染発生状況報告と対策の検討 5. 感染対策のための啓発、教育、広報に関する検討 6. 感染対策指針およびマニュアルの改訂、運用に関する検討 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年29回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修医オリエンテーション：感染対策について 2. 新入職看護師技術研修：標準予防策・針刺し事故防止 3. 抗菌薬適正使用について 4. インフルエンザの感染対策 5. ノロウイルスの感染対策 6. 委託業者対象感染対策勉強会 7. 結核を見逃さないために 8. 新型インフルエンザ 他 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備（㊦ ・ 無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染対策上重要な病原体が検出されると、検査室よりただちに感染対策室へ報告される。また病棟などで、感染力の強い感染症の疑いが発生した場合にも、ただちに感染対策室へ報告され、担当者に対応する体制となっている。 2. 感染対策室は、日々の情報収集から介入が必要な病棟や診療科を対象として重点的にミーティングや勉強会を開催している。 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	㊦・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容: ・ 第1回 薬剤・感染セミナー「知っておきたい抗菌薬」 ・ 第2回 薬剤・感染セミナー「医薬品業務手順書について」、「TDMとは」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (㊦・無) ・ 業務の主な内容 平成19年の設定した手順書も今年度9月に3回目の改訂を行い、その後手順書(チェックリストとして使用可)を関係部署に配布して実施状況を確認、記録している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (㊦・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: リスクマネジメント委員会の一部として、薬剤検討ワーキンググループを設置し、毎月インシデント報告の分析を基に改善の検討を行っている。また、薬剤部の医薬品情報室と連携をとり、情報の収集を行っている。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊦・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年15回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液と電解質の管理を学ぶ、輸液ポンプ、シリンジポンプの正しく安全な使用と保守点検方法を学ぶ ・ 心電図の基礎を学ぶ、患者の周辺医療機器、心電図モニタ、パルスオキシメーター、除細動器の安全使用を学ぶ ・ 人工呼吸器の安全使用、トラブル事例、保守点検方法を学ぶ、人工呼吸器装着中の正しい看護を学ぶ ・ 呼吸不全を学ぶ、正しい気道ケアを学ぶ 他 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (㊦・無) ・ 保守点検の主な内容： <p>中央検査部、リハビリテーション科、臨床工学部関連(各外来、ICU、CCU、母子センターなどの特殊病棟含む全病棟、手術室、血液浄化部、救急部、内視鏡部など)それぞれの部門に設置(配置)されている各種機器について、日常点検(始業点検、使用中点検、使用後点検)を行う。</p> <p>保守点検を実施している主な医療機器</p> <p>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式 保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ</p> 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (㊦・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液セット滴数切り替えの調整 ・ 大動脈バルーンポンピング(IABP) 自主回収・ACAT-1 ・ 空気・酸素混合装置 流量計付ブレンダ回収 ・ 非加熱式ネブライザ自主回収 ・ 人工呼吸器・HT-50 について注意喚起 ・ 人工呼吸器LTVシリーズ自主回収 ・ 内視鏡用ディスプレイ鉗子の自主回収 	